

♪# 時代を築いた歌手、横山茂さん アルツハイマー病になってもなお！ ♪#
＝ここにもアコーディオンが＝

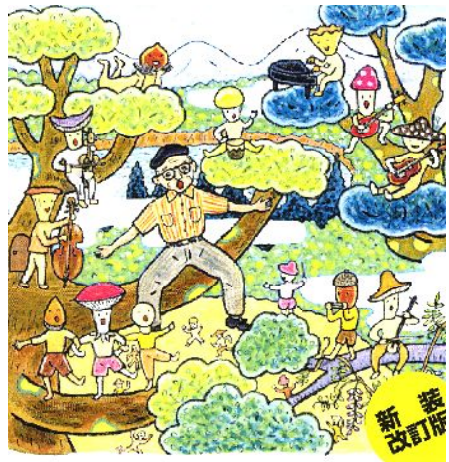
・・・横山さんの歌は、常にアコーディオンとともにありました。・・・(2007年2月11日、於：カフェ&ギャラリーのコンサート時での原稿です。)

6年前にアルツハイマーと診断され、現在(要介護3)の横山茂さん。横山さんは、いつ歌えなくなるかわからない、とにかく素敵な声なので一度聴きに来て、と友達から誘われるまま町田にあるコンサート会場の喫茶店に足を運んでみた。

こんなアルツハイマー患者は初めて・・・横山さんの声は幼児のように柔らかくやさしかった。言葉は美しくはっきりしていた。一瞬、固唾を呑んで息をこらし耳を疑ってしまった。ごく一部、記憶がなくなったのか付き添っている奥様のリードに助けられるところは見られたが音程はまったくぶれない。もっとも、奥様の説明では、毎日2時間、3時間とコンサート予定曲や歌いたい曲の練習を欠かすことなく続けているとのこと。練習を終えると譜面をかばんに入れ玄関へむかい靴を履きでかけようとするので、「お父さん今日はコンサートありませんよ」と言うと「そうか」と座敷へ引きかえすのだそうです。

横山さんは、1926年2月岡山市に生まれ5歳のとき父が病死、10歳のとき母を亡くし、17歳で満州の大連港にある「大連汽船」に就職する。その頃の大連は、緊迫した戦争色はうすくまだのんびりして市内には、いくつもの合唱団がありさっそく「大連放送合唱団」など三つの合唱団に飛び込み、休日はもちろん、仕事を終えた夜間も水を得た魚のように合唱団を泳ぎまわったそうです。

19歳で徴兵検査に呼び出され甲種合格。短い訓練を終えた彼は、ソ連との国境地帯へ送られた。待っていたのは塹壕掘や爆弾を抱えて敵戦車に体当たりする特攻訓練だった。その頃、ドイツが敗戦、沖縄が壊滅状態、広島への原爆投下と戦況が急速に悪化していたことも知らなかったようです。そして長崎にも原爆が投下された同日、ソ連軍が参戦してきたのです。突如戦車部隊を先頭に雪崩を打って攻め込んできて、70万の関東軍も逃げ惑うばかりだったと言います。横山さんの部隊も南を目指し退却していると、はるか前方を逃げていた大隊めがけて大砲が打ち込まれていた。大砲の響きの大きさに振り向くと、後方数百メートルの丘の上に何台かの戦車が砲身をこちらに向け打ち出していた。横山さんはとっさに近くの湿地帯の草むらに飛び込み、体半分水に浸かりながら息を殺したと言います。



カット：CDカバーより

やがて戦車が地響きを立てて近くに集まってくるのに続いて、にぎやかな始めて聞くロシア語の集団が続々とやってきた。日暮れが近づき急に寒くなり、恐怖と空腹も重なり震

えが止まらなくなった頃歌声が聞こえてきたのです。

合唱だ！横山さんは耳を疑った。ものすごい声量だ。なんという見事なハーモニーだ。伴奏のアコーディオンが鳴っている。そのうち合唱の中からきれいなソプラノが流れ出してきたのです。「わっ、ソ連軍には女性の兵隊もいるのか！なんという軍隊だ。こんな底抜けに明るい余裕満々の軍隊には到底かなわない！」横山さんはそう思い潜んでいた茂み越にそっと顔を上げてみると、黒々とした戦車の前で、明るさを増した焚き火を囲んだ大勢のソ連兵が合唱をしていた。やがて手拍子、掛け声、指笛が激しく鳴ってダンスが始まった。その後シベリアで、あの時ソ連兵が歌っていたのは「満州の丘に立ちて」「カチューシャ」などであったことを知る。

敗戦から10日目の8月25日になって捕虜の身となった。あちこちから丸腰の日本兵が集められ「日本へ帰るための列車が待っている、ソ連兵の後に付いていけ」と通訳を通して聞き勇み立って歩き始め一週間も歩いたところに貨物列車が止まっていた。すし詰めの満員状態でゆっくり進んでいたが、北へ向かっているぞ、どうもおかしいと騒がしくなり、満州どころではない猛烈な寒さのシベリア送りとなったのです。横山さんは、決して弱音を吐くことはなく、暴力的な上官やソ連兵には人間的な心のかよう歌で応え、決して屈服することはありません。また、ロシアの囚人たちと日常的に出会う中で、彼らの歌う「バイカル湖のほとり」「囚人の歌」などのシベリア民謡から、共感と不屈の心を受け取っていたようです。



カット：CD 添付資料より

横山さんは、帰国後「わらび座」を創った一人で初代の座長としても知られています。

コンサートでの紹介や、会場で買い求めた「奇跡の歌手・横山茂」わらび座を創った男の物語り（横山茂の本を作る会編）あけび書房発行。の中から引用させていただき紹介致しました。



↑CDジャケットより

《横山茂さんのCD「カタクリの花」の紹介》

♪収録曲 長持唄（秋田民謡）／津軽山歌（青森民謡）／南部牛追唄（岩手民謡）
泣き節～相川音頭（新潟民謡）／春山節（八丈島民謡）／とばらま（八重山民謡）
バイカル湖のほとり、流刑人、郵便馬車の馭者だったころ（ロシア民謡）／ベルリンを去りて／夕暮れの唄／今日は帰れない／巣を失った雀／りんどう挽歌
／もずが枯れ木で／若狭の海／雪の降る町を／見上げてごらん夜の星を／カタクリの花

共演者 ピアノ/ 安達元彦。 アコーディオン/ 岡田京子、白川雅宗。 フルート/ 中原悦子

三線、うた/ 小野奏子。 合唱/ 帰還者仲間の有志

■問い合わせ、申し込み先：TEL & FAX 042-687-3907（シーゲル堂 横山）／ TEL & FAX 04-7174-2553（柴田和子）